

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 企教 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、数学）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的
- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

(2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

(3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容
- (1) 教科に関する調査（国語、数学）

教科に関する調査（国語、数学）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問調査
- | 生徒質問調査 |
|-------------------------------|
| ○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 |

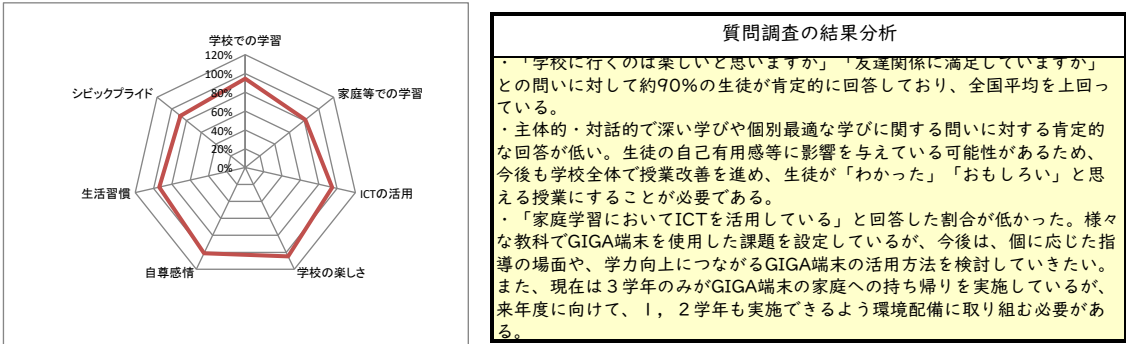
3. 教科に関する調査結果の概要
- (1) 全国・本市の学力調査（国語、数学）の結果

本年度の結果	国語		数学	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	57	7.8	49
全国	8.7	58	8.4	53

- (2) 本校の学力調査結果の分析
- | | | | |
|----|-------------|---|-------------|
| 国語 | 全体的な傾向や特徴など | 知識・技能に関する問題ができており、中でも書写に関する問題はよくできていた。思考・判断・表現に関する問題は努力が必要であるが、書くことについては全国平均程度の結果が見られた。 | 全国平均正答率との比較 |
| | よくできた問題 | 行書の特徴についての問題や、効果的な表現の工夫をしながら物語を書く問題がよくできていた。 | 下回っている |
| | 努力が必要な問題 | 言葉の順序や照応についての問題、短歌の描写から内容を把握する問題は努力が必要であった。 | |

数学	全体的な傾向や特徴など	基礎基本の定着に課題がみられる。基礎や基本ができていれば、その後の応用の際にも、必要な事柄を抜き出す力なども向上すると思われる。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、∠AQCと∠BPCの大きさについていえることの説明として正しいものを選ぶ	下回っている
	努力が必要な問題	18Lの灯油を使いきるまでの「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組
- ① 教科に関する取組

国語に関しては、部分的に下回っている分野において、授業や課題、定期考査などで計画的、段階的に改善に努め、正答率の向上を目指す。数学に関しては、生徒の点数取得率に対する中間層、下位層の底上げに注力し、生徒全員が「わかった」、「できた」を実感できる授業につなげたい。
- ② 家庭生活習慣等に関する取組

朝食を食べずに登校している生徒や、就寝・起床時間がまばらになっている生徒などが多い。規則正しい生活が、健康な身体作りや学ぶ力の向上に大きく影響があることを生徒や家庭に伝え、活気に満ちた学校生活や家庭生活を送れるように取り組んでいきたい。